

新内閣と政治の行方

福山大学客員教授、元経済企画庁長官

田中秀征

- * 経産相辞任ではつきりしたこと
- * 消費税管理内閣にシフト
- * 96年の頃が格好のモデルに
- * 事業仕分けは予算査定の代行
- * 96年の頃が格好のモデルに
- * 細川さんは野田首相の父兄？
- * 行革を伴わないと失敗する
- * 民主党は無原則が原則
- * 一心不乱に大震災対応一本で
- * 得点したのは岡田さんだけ



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

田中秀征さんが講演されるのを楽しみにお待ちになっていた方も多いと思いますが、前回は去年の7月、菅政権が誕生した直後でした。菅さんの評価、あるいは何をやるだろうかということ等いろいろ話されたのですが、あれだけ辛辣に菅さんについて語った人は当時いなかったはずです。昔から菅さんをよく知っている秀征さんならではで、厳しく話されて、そのとおりになりました。

小沢さん、鳩山さん、菅さんがこれからどうなるのかも少しは知りたいところですが、それよりも新しい政権がこれからどういふふうに進んでいくのか。民主党に対する期待感はどう感じていますけれども、秀征さんは非常に

重要なことを今日おっしゃってくださると思います。楽しみにお聞きしたいところです。それではよろしくお願いいたします。（拍手）

田中 みなさんこんにちは。今、浅野さんからお話があったように、前回は菅さんの政権ができた直後だったと聞きまして、そうとうきついことを言ったのだろうなと思っています。菅政権がああいう形になってしまつて、かつて信頼関係があった者として、ある種の自責の念もあります。それから自己嫌悪、自分はばかだつたという、そういう気持ちもなきにしもあらず。

（笑）

当時、宮崎勇先生が新聞記者に「あの二人はなんで仲がいいの？」と言っておられたというのを耳にして、そのときはびっくりしましたが、